

図書館

だより Library News

今月の
新着本

「いつか、キャッチボールをする日」
鯨統一郎 / PHP 研究所
36歳のベテラン選手と、心臓病のひとり息子との約束は、クライマックスシリーズでのホームラン。だが、「明日の試合、絶対に打たないでください」という電話が…。【中央図書館所蔵】

「Hello, CEO」
幸田真音 / 光文社
藤崎翔は外資系会社の規模なリストラ計画を機に、信頼する上司や同僚たちと5人でベンチャー企業を立ち上げる。夢は自分の手で引き寄せる！新米社長の熱血ビジネス・ストーリー。【葦山・長岡図書館所蔵】

「東京駅之介」
火田良子 / 講談社
昭和24年東京駅の便所に捨てられた赤子は、東京駅之介と名づけられた。今日生きるか、明日死ぬか。戦後の混乱の中、東京駅で眠り、飯を食う「団塊の世代」の少年時代。【長岡図書館所蔵】

「いのちの記憶」
岩合光昭 / 世界文化社
地球上のすべての地域をフィールドに、野生動物を撮り続ける著者のフォトエッセイ集。確実に減少する自然をみつめ、懸命に生きる野生動物のいのちの輝きを伝える厳選100枚。【葦山図書館所蔵】

介護する人、される人のために

図書館には、さまざまな立場から書かれた介護の体験記があります。たとえば…

「介護体験記 汗かきベそかき恥かき日記」……
認知症老人介護の家族に勇気を与える1冊。
【中央図書館所蔵】



中央図書館の生活コーナーには、介護の棚を設け、介護法・介護機器・食事など実際に役立つ本も集めてあります。ちょっとした工夫や心構えを知ること、介護する側される側のお互いが楽になれるかもしれません。

問合せ

【中央図書館】電話 0558 76 5566
休館日 1月1日(火)～4日(金)
7日(月)・14日(月)
15日(火)・21日(月)
25日(金)・28日(月)

【長岡図書館】電話 055 947 2364
休館日 1月1日(火)～4日(金)
7日(月)・14日(月)
15日(火)・21日(月)
25日(金)・28日(月)

【葦山図書館】電話 055 949 8605
休館日 1月1日(火)～4日(金)
9日(水)・14日(月)・16日(水)
23日(水)・25日(金)
30日(水)

おすすめの1冊



「廓の与右衛門控え帳」
中嶋隆 / 小学館
人斬り稼業から島原遊郭の番所詰めとなり、刀を捨てた与右衛門。廓内で起こる厄介事を次々に解決してゆく艶物時代ミステリー。きらびやかな遊郭の生の生活が垣間見える。【中央・葦山図書館所蔵】

「和の行事えほん 秋と冬の巻」
野紀子 / あすなろ書房
重陽の節句、七五三、年越し、節分…由来と意味を知れば、季節の行事はますます楽しくなる！日本人なら知っておきたい和の伝統行事と季節のたのしみ。【中央図書館所蔵】

22 文化協会のだより

手芸作品(今年の市民文化祭)



田文連手工芸部門作品展

～手工芸で広げる田方の輪～

伊豆の国市・伊豆市・函南町の文化協会が構成する田方文化協会連絡協議会では、毎年さまざまな文化・芸術のジャンルの中から発表するものを選び、市民の文化活動をアピールしています。今年は手工芸展を開催します。会員の力作・労作をぜひご鑑賞ください。入場無料。

とき 1月18日(金)12:00～17:00
19日(土)9:00～17:00
20日(日)9:00～15:00

ところ 伊豆市生きいきプラザ大ホール

問合せ 社会教育課 電話 055 948 1461

伊豆の国市文化協会(西山) 電話 0558 76 4036



問合せ 社会教育課
電話 055 948 1461

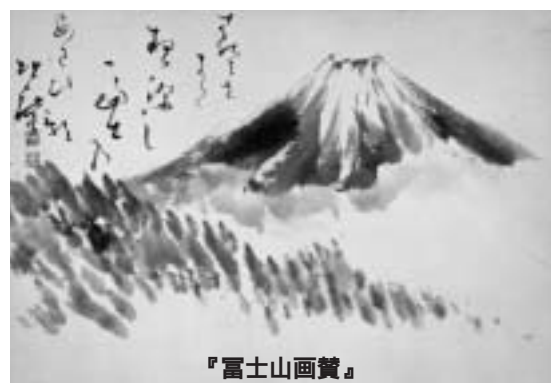
文化財通信

その33 県指定文化財紹介6

重要文化財江川家住宅(江川邸)に伝わる三pointsの県指定文化財。十二月号では、その一つ『絹本淡彩江川坦庵自画像』を紹介しました。続いて今回は、『富士山画賛』(紙本墨書、江川英龍画)をとりあげます。

この絵が描かれたのは、弘化元年(一八四六)から嘉永三年(一八五〇)頃のことだと言われています。天保の改革の挫折と老中水野忠邦の失脚にともなって、水野に抜擢されて活躍していた英龍は、幕府政治の第一線から遠ざかっていました。そのため、この時期の英龍は、多く葦山の江川邸にあって、全国から派遣されてきた人材に、西洋砲術を伝授することに専心していたのです。

通称「葦山塾」と呼ばれたこの塾では、書物による学料の授業はもちろんのこと、西洋式の小銃を用いた山獵泊まりがけで山に入り、鹿や猪などを狩る(が、盛んに行われませんでした。その際には、英龍



『富士山画賛』

自らが先頭に立つて塾生たちを率いていたといえます。

英龍は、山獵に行くときには必ず紙と筆墨を携帯しました。仕留めた獲物をスケッチしたり、心に浮かんだ詩想を書き留めたりするためです。

この絵も、南箱根へ山獵に出かけた折りに描かれたとされています。ご覧のとおり、朝もやの中から屹立する富士山の姿が、迷いのない大胆な筆勢で描き出されています。山頂が雪で白く覆われているので、厳寒期の風景でしょう。しかしこの作品は、ただ単に富士山を描いただけの、おめでたい絵ではありません。そのことは、画面左上に付

された賛『さとはまだ夜深し富士のあさひ影』に表されています。「富士の高嶺は、さし初めた朝日で早くも明るく輝いているが、ふもとの里はまだ深い夜の中にある」。

激しく動いている世界情勢の中で、日本の夜明け、とるべき道は見えてきていくというのに、里、つまり政治を動かす者たちは、まだ深い夜の中で眠ったまま、それに気づかずにいる。

この絵には、幕末という激動の時代にあつて日本という国の未来を見据え、現状を心から憂えた江川英龍の真情が込められているのです。

ふじさんがさん【富士山画賛】

指定区分 県指定文化財(絵画)
指定名称 富士山画賛
指定年月日 昭和43年3月19日
製作年代 江戸時代後期
製作者 江川太郎左衛門英龍(坦庵)
所蔵者 江川家